



2006年3月期

中間決算説明資料

平成18年2月

ケンコーマヨネーズ株式会社



中間決算概要

	ページ
1. 当中間期の概況	2
2. 中間連結貸借対照表	3
3. 中間損益計算書	4
4. 連結売上高の推移	5
5. 連結売上構成比の比較	6
6. 2006年3月期の通期業績予想	7
7. 過去5年間の連結売上高の推移と予想 ..	8
8. 中長期的な経営戦略と対処すべき課題 ..	9

1. 当中間期の概況



当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の回復や設備投資の増加等により景気の踊り場からの脱却に向いておりますが、原油価格の高騰、税制改革の不透明感等により依然として楽観視できない状況であります。

食品業界におきましても鳥インフルエンザ問題等長期化し、また同業との競争も熾烈化しており引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況の中で当社グループは、お客様の「安全・安心」へのニーズにお応えするため、原材料のトレーサビリティを行っております。これは食品メーカーとしての責務であると認識しているためであります。

また、「K R P 5 2 0」の計画に基づき、生産改革推進による原価低減に努めると共に、物流システムの再構築や取引の見直しを図って参りました。

この結果、当中間連結会計期間の連結売上高は253億5千1百万円（前年同期比3億2千2百万円、1.3%増）となりました。利益面につきましては連結経常利益は11億4千7百万円（前年同期比2億8千3百万円、32.8%増）、連結中間純利益は8千4百万円（前年同期比3億3千8百万円、80.0%減）となりました。これは特別損失として減損損失を2億9千1百万円計上したことによります。

2. 中間連結貸借対照表



(単位:百万円)

	2004年9月期	2005年9月期	増 減	備 考
流動資産	14, 688	13, 426	△1, 262	現預金の減少
固定資産	13, 566	12, 185	△1, 381	土地・建物の減損 処理
資産合計	28, 254	25, 612	△2, 642	
流動負債	18, 529	16, 565	△1, 964	短期借入金の減少
固定負債	4, 481	3, 896	△ 585	役員退職慰労引当 金の減少
負債合計	23, 010	20, 462	△2, 548	
少数株主持分	—	50	50	
資本合計	5, 244	5, 100	△ 144	利益剰余金の減少
負債・資本等 合計	28, 254	25, 612	△2, 642	

3. 中間損益計算書



(連結)

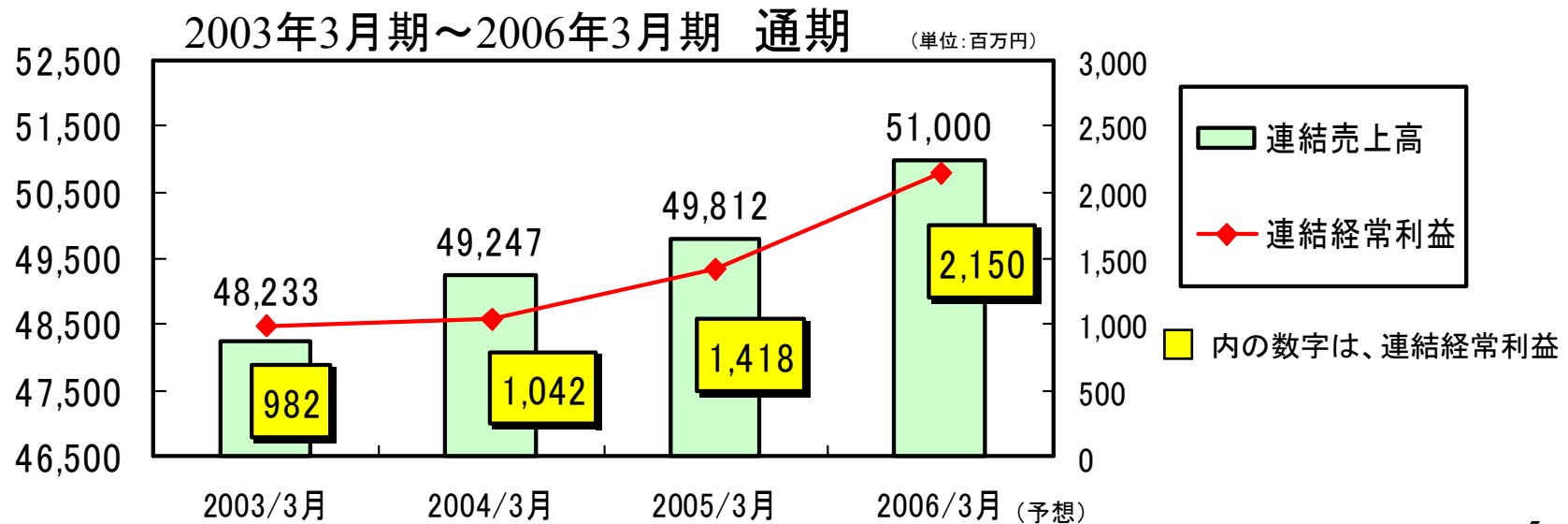
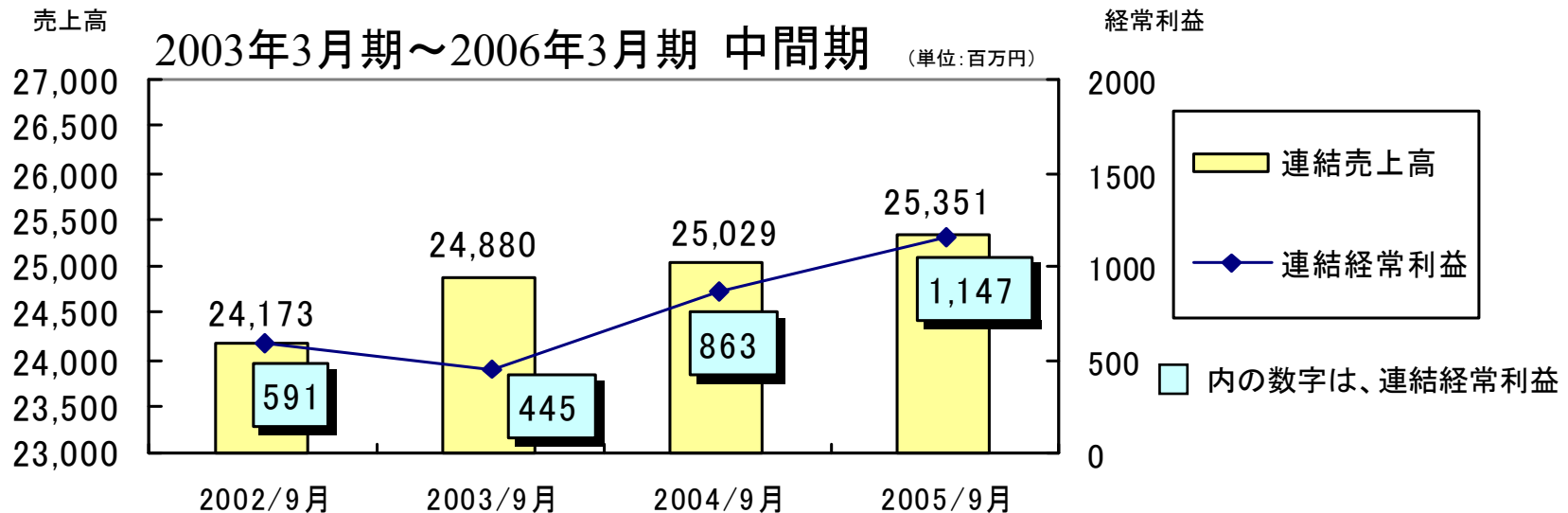
(単位:百万円)

	2004年9月期	2005年9月期	増 減
売 上 高	25, 029	25, 351	322
営 業 利 益	947	1, 168	220
経 常 利 益	863	1, 147	283
中間純利益	422	84	△338

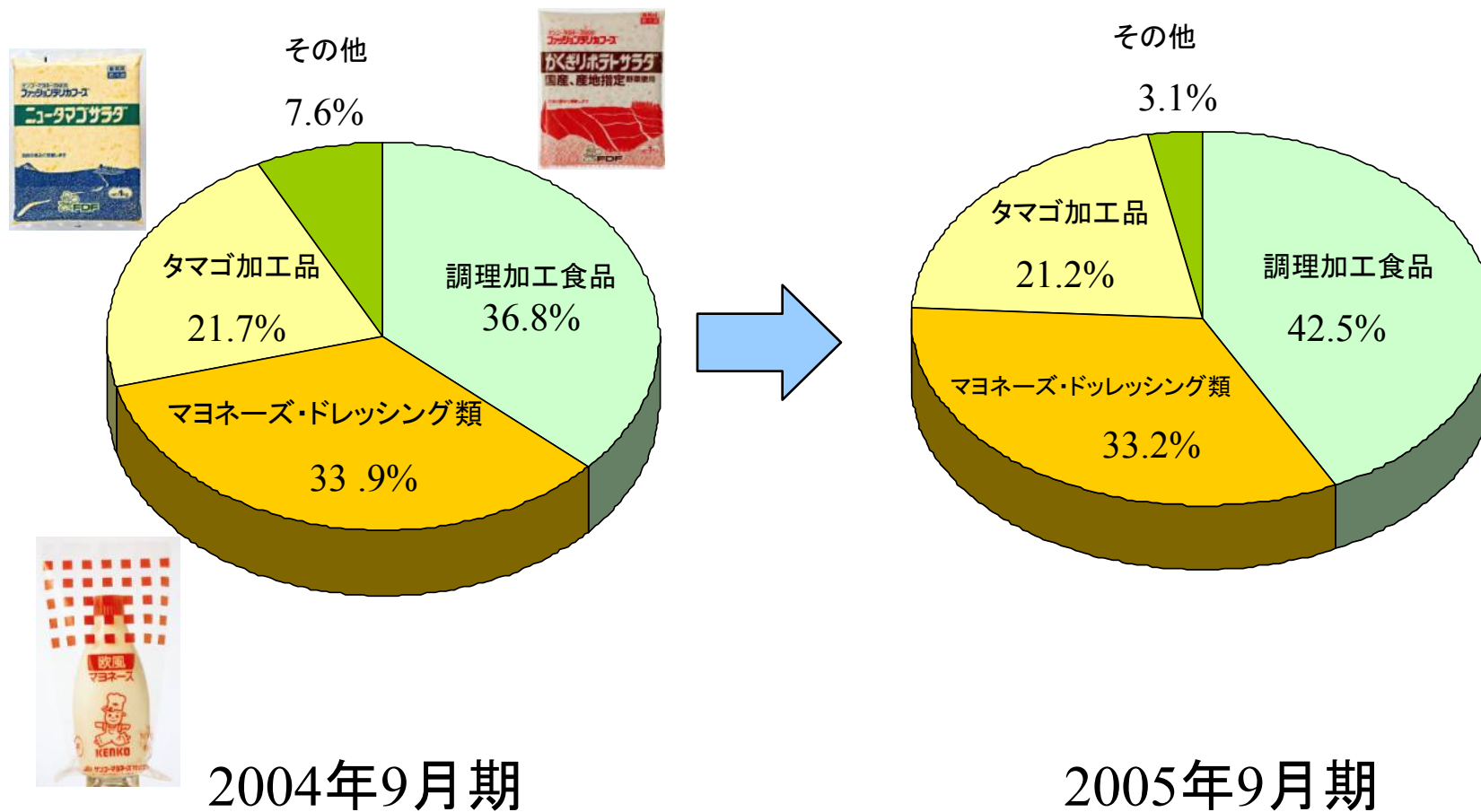
(単体)

売 上 高	22, 020	21, 827	△192
営 業 利 益	819	1, 060	240
経 常 利 益	754	1, 053	298
中間純利益	300	87	△213

4. 連結売上高の推移



5. 連結売上構成比の比較



6. 2006年3月期の通期業績予想



(連結)

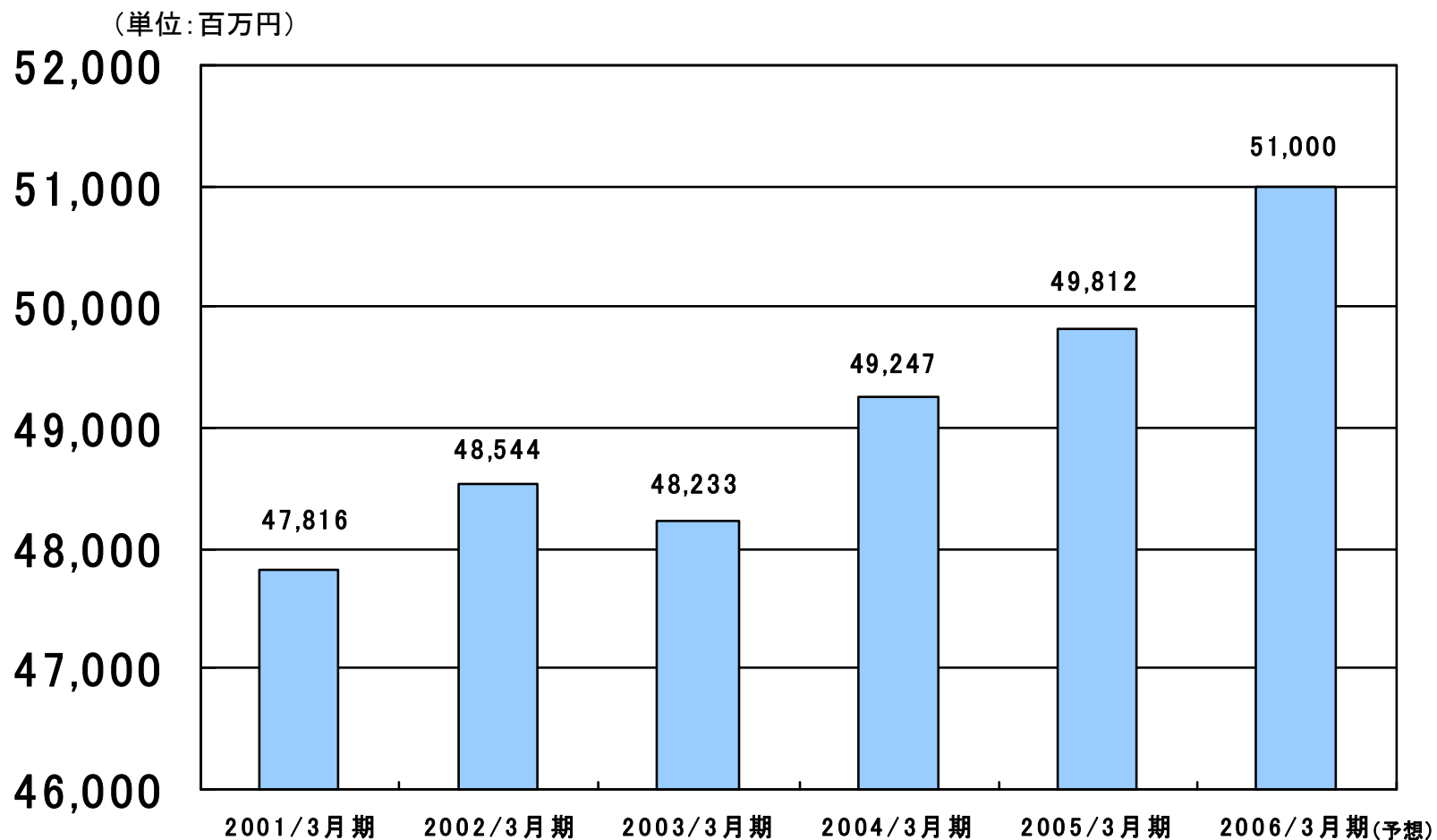
(単位:百万円, %)

	2005年3月(実績)	2006年3月期(予想)	前期比
売上高	49,812	51,000	102.4%
経常利益	1,418	2,150	151.6%
当期利益	140	730	521.4%

(単体)

売上高	43,280	43,300	100.0%
経常利益	1,290	1,900	147.3%
当期利益	212	630	297.2%

7. 過去5年間の連結売上高の推移と予想



8. 中長期的な経営戦略と対処すべき課題



食品メーカーとして、コーポレートブランドの向上を邁進すべく、「安全・安心・安定・美味しい」食材の安定供給に努め、マヨネーズ・ドレッシングの製造を基盤事業とし、これに関連した事業の拡充・促進によりグループ全体の一層の付加価値創出に努めて参ります。

一方、経営体質強化に向け中期経営計画、『ケンコー・リバイバル・プラン520（K R P 520）』を掲げ、事業再編への課題に取り組んで参りました。この「K R P 520」が一年前倒しで完了することにより、次期3カ年計画における更なる飛躍に向け取り組んで参ります。

今後の具体的な重点施策としましては、中食市場への高まりが見込まれることにより、業務用得た情報をショップで検証・発信し、更に次の業務用への提案につなげることで当社グループ企業へのシナジー効果を生み、「開発・生産・販売」をいかし、「本体・関係会社・ショップ」による三位一体の事業展開を目指して参ります。また、医食同源の地である中国に海外拠点の設置を完了したことで、中国圏でのサラダ食文化の普及促進並びに啓蒙活動に努めて参ります。

これらにより、グループ内情報を有効活用し、経営基盤・営業基盤の更なる強化を図り、健康志向社会に対応した”サラダNO.1企業”を目指して参ります。



A. リスク・マネージメントの強化

- 品質・・ISO9001及びHACCPに準拠した衛生管理、工程管理の実施、品質保証本部による工場管理状況のチェック
- 財務・・長短資金適正残高の確保・維持並びに最適資本構成実現
営業キャッシュ・フローの改善
- 法務・・法令順守のための管理マニュアル作成と整備

B. 情報化社会進展における対応

- 多様化・複雑化する取引対応のための基幹系システムの再構築
- 品質管理体制の強化のためのトレーサビリティの導入

C. 新規事業展開、拡大の為の足固め

サラダ事業の一層の拡大を図る為、サラダカフェ（株）を設立、サラダの直売事業を展開致しました。当面は関西圏を中心にデパート地下売場等での店舗展開を行い、ノウハウの蓄積を図り、全国に拡大して参ります。

また、中国東莞市において健可食品（東莞）有限公司も設立し、海外での生産・販売を行い、海外拠点の拡充に向け、第一歩を踏み出しました。

We love salad



ケンコーマヨネーズ

本資料に関するお問い合わせ

ケンコーマヨネーズ株式会社

URL: <http://www.kenkomayo.co.jp>

TEL : 03-5317-1111

当資料は現時点での計画、見通し、戦略など入手可能な情報から得られたものであります。実際の業績は、さまざまな重要な要因により、これら業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要素として、主要な原料でありますサラダオイル、卵、野菜の購入価格の為替相場及び市場相場の変動があげられます。当社の売上原価に占める原材料比率のウェイトは高く、購入価格の変動により、当社の経営成績に影響を与える可能性があります。